

横浜労災病院 血液内科のご紹介

2023年7月14日

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

みなさま、はじめまして。横浜労災病院 血液内科の山崎 悦子(やまざき えつこ)です。

2023年4月に、横浜市立大学から赴任してきました。今回はみなさまへのご挨拶を兼ねて、当科の紹介をさせていただきます。



山崎 悦子

血液内科 部長

1. 当科の紹介

横浜労災病院血液内科は、佐藤忠嗣現輸血部長が産業医大より、平澤晃現副院長が千葉大学より赴任して以来、30年間横浜北部エリアの血液疾患症例の治療にあたってきました。若手の血液内科医は当初は産業医大から、途中からは千葉大学から定期的にローテーションしてきておりました。また、断続的ではあるものの北里大学の血液専攻医が当院で後期研修を行っており、のちに血液専門医となっています。

当院で研修を行った初期研修医からも血液内科医を目指し、横浜市立大学医学部血液免疫感染症内科学に入局した医師が何人もおります。ここ数年千葉大学からの医師派遣が困難となり、本年4月に横浜市大から山崎が赴任して参りました。

現在当科は、平澤副院長、山崎、大八木副部長、大寄専攻医の4人体制で血液疾患症例の入院治療を行い、また同4人に加え佐藤輸血部長の5人体制で外来治療を行っています。平澤、佐藤、山崎、大八木は血液専門医、血液指導医です。

2. 当科での診療

造血器悪性腫瘍に関しては、基本的に日本血液学会発行造血器腫瘍ガイドライン最新版および米国National Comprehensive Cancer Network Guidelines を参考に、保険適応のある治療を症例毎に検討して最適と考えられるものを選択しています。悪性腫瘍以外の造血器疾患についても、ガイドラインのあるものはそれに沿った治療選択を行っています。

現在、当科で行っている代表的な疾患の治療方針について御紹介します。

急性白血病/慢性白血病

当院は、2023年4月に成人白血病治療共同研究機構(JALSG)に加入いたしました。JALSGは「多くの血液疾患で苦しむ人々を救う活動を推進する」という公益の観点から、質の高い施設共同の臨床研究を推進するとともに、血液疾患に関する社会環境の改善に貢献することを理念とし活動している日本を代表するグループです。

主に、急性骨髄性白血病(AML)、急性前骨髄性白血病(APL)、急性リンパ性白血病(ALL)、慢性骨髄性白血病(CML)に対して臨床研究が組まれます。当科もALL-T19/B19研究への参加をしています。AML、APL、CMLへも今後順次参加予定です。

臨床研究に参加するまでは、すでに論文等でその成績が既報告となっている過去の臨床研究でのプロトコルを参考に治療を行っています。また、ここ数年で保険承認されたbcl.-2阻害薬(ベネトクラクス)やFLT-3阻害薬(キザルチニブ、ギルテリチニブ)、BiTE抗体(プリナツモマブ)、抗CD22抗体(イノツズマブ)、STAMP阻害薬(アシミニブ)等の新薬も対象疾患に応じて使用しています。

悪性リンパ腫

悪性リンパ腫は、標準治療が変わりつつある領域です。非ホジキンリンパ腫(NHL)に対しては、ここ20年ほどはB細胞性NHLに対してリツキシマブ(RTX)、シクロフォスファミド(CPA)、ドキソルビシン(ADR)、ビンクリスチン(VCR)、プレドニゾン(PSL)を用いたR-CHOP療法が、T細胞性NHLに対してはCHOP療法がGolden standard treatmentとして用いられてきました。

しかし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)に対して、抗CD79b抗体と微小管阻害剤を共有結合させた抗体薬物複合薬であるポラツズマブベドチン(Pora)をVCRの代わりに用いたPola-R-CHP療法がR-CHOP療法と同等以上の治療成績であることが報告され、ここ1年程で標準治療となりつつあります。再発DLBCLに対してもPoraとベンダムスチン、リツキシマブを用いたPora-BRが使われるようになっていきます。

また再発T細胞性NHLにも数種類の新薬が開発され、治療選択肢が広がっています。ホジキンリンパ腫(HL)に対しては、標準治療であったドキソルビシン、ブレオマイシン、ビンブラスチン、ダカルバジンを用いたABVD療法のブレオマイシンの代わりに抗CD30抗体と微小管阻害薬を共有結合させた抗体薬物複合薬であるブレンツキシマブベドチンを用いたA-AVD療法が標準治療となりつつあります。また、再発HLに対しては、免疫チェックポイント阻害薬も使用します。

多発性骨髄腫

多発性骨髄腫は、この20年間で最も多くの新規薬剤が発売された血液腫瘍領域です。現在、概ね65歳以下に対しては、ボルテゾミブ(Bor)、レナリドミド(Len)、デキサメタゾン(Dex)を組み合わせたBRd療法で初期治療を行った後に自家造血幹細胞移植(ASCT)を行っています。

また、ASCTが困難と考えられる症例には、初期治療から抗CD38抗体であるダラツムマブを併用した三剤ないし四剤併用療法を行っています。多発性骨髄腫は症例毎に併発臓器障害が多彩であるため、一人一人の臓器機能に合わせ安全に行える治療を選択しています。

3. 当院で行えない治療

当院では、同種造血幹細胞移植(allo-SCT)と遺伝子改変キメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法は出来ません。そのため、allo-SCTが必要な症例は、神奈川県内であれば神奈川県立がんセンターや横浜市立大学附属病院、東海大学附属病院、虎の門病院分院など、allo-SCTを数多く経験されている施設へ紹介しています。

また、CAR-T療法は神奈川県内では横浜市立大学附属病院が唯一の実施施設となっています。

紹介先の施設は患者さんの居住地や希望なども伺って、決定しています。

4. 当科へ患者さまをご紹介いただくご施設のみなさまへ

紹介枠が込み合っておりお待たせすることが多く、大変申し訳ありません。緊急性があるご判断されるような場合には、直接血液内科へお電話を頂けますと受診日調整が可能です。

また、診療情報提供書に貴院での検査結果を同封していただきますとスムーズな診療へつながりますので、どうぞよろしくお願いいたします。症例カンファレンスは毎週火曜日16時から血液内科病棟で行っております。参加をご希望される先生がいらっしゃいましたら、ご連絡くださいませ。



山崎 悦子(やまざき えつこ)

血液内科 部長

■専門分野

血液病学、検査血液学、臨床検査学

■学会専門医・認定医

日本内科学会認定総合専門医・指導医

日本血液学会認定血液専門医・指導医

日本臨床検査医学会認定検査専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本造血・免疫細胞療法学会認定医

お問い合わせ先



独立行政法人 労働者健康安全機構 横浜労災病院 地域医療連携室

TEL:045-474-8111 平日 8時15分～17時00分

FAX:045-474-8323

ホームページ:<https://yokohamah.johas.go.jp>